

イネばか苗病の撲滅にご協力願います

最近、県内において**イネばか苗病の発生が急増しています**。
本病は**発生後の防除ができないため**、種子消毒等による適切な防除を行わないと、周囲にまん延する恐れがあります。
発生株は成熟せず枯死するため、米の**収量が減少します**。

イネばか苗病の発生と防除方法

イネばか苗病に感染した種もみ

適切な種子消毒で防除は可能！

浸種・催芽時に健全もみに感染

発病苗は抜き取る！
本田に持ち込まない！

育苗時に発病
本田で発病



水稻（飼料用米を含む）を作付する生産者の皆様へ！

イネばか苗病の適切な防除にご協力をお願いします

▼ イネばか苗病の発生を防ぐために ▼

- ☑ 毎年、**種子更新を行いましょ**う。
- ☑ 種子消毒には**効果の高い薬剤を使用しましょ**う。
 - ・温湯消毒の場合は、処理の温度、種子量及び時間を必ず守りましょ

▼ イネばか苗病が発生したら ▼

- ☑ 苗箱や本田で発生した株は、**すぐに抜き取りましょ**う。
 - ・抜き取った株は焼却または土中に埋めましょ
- ☑ 粃やわら、米ぬか等が翌年の感染源となるため、**作業場を清掃し、苗箱を消毒しましょ**う。

茨城県・（公社）茨城県農林振興公社

J Aグループ茨城・茨城県食糧集荷協同組合・茨城県食糧販売協同組合

種子消毒のポイント イネばか苗病防除には種子消毒が有効です

▼薬剤による消毒（薬液の温度は10～15℃を目安に調節を！）

●薬剤吹付種子（消毒種子）の場合●

浸漬は種子 1 kg に対し水 4 L（容量比 1 : 2）とします。

薬剤の効果を高めるために、**はじめの3日間は水を交換せず**、その後も浸種が完了するまで、水の交換は2～3回程度とします。

●未消毒種子又は自家採種種子の場合●

種子を薬液に浸漬する際には**よくゆすり**、薬液が種子粉袋の中心部まで十分に行き渡るようにします。

▼温湯消毒

装置のマニュアルに従い、温湯消毒を行います。

処理開始時の急激な温度低下や中心部の温度不足により、十分な効果が得られないことがあります。**1回の処理量は適量**とし、**浸漬直後に網袋をゆすり**、中心部まですばやく温度を上昇させます。

◆防除効果を高めるためには**生物農薬との併用処理も有効**です◆

イネばか苗病とは？

- ・イネばか苗病は糸状菌（カビ）である *Fusarium fujikuroi* によって引き起こされる病害で、**種子伝染**します。
- ・育苗時に保菌種子が混入していると、育苗工程の浸種→催芽→出芽時に**菌が放出され**、**健全種子に伝染**して発生が多くなります。

イネばか苗病の主な病徴

- ・育苗期では第2葉期以降に症状が現れ、**葉や葉鞘が伸びて徒長**し、色が淡くなります（写真1）。
- ・本田に移植後も、葉鞘や節間が徒長し、**黄化**します（写真2）。
- ・発病株はやがて枯死し、**株元に多量の胞子を形成**して伝染源となります（写真3）。
- ・胞子は風に乗って飛散して**開花期の穂に付着**し、**種もみが感染**します。



育苗中の徒長苗
（写真1）



圃場での発病株
（写真2）



株元に形成された胞子
（写真3）